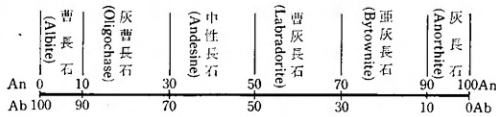


# 地質調査所の標本(その4)

## 斜長石 Plagioclase

斜長石類は カリ長石と共に造岩鉱物として 広く各種の岩石の中に存在し その化学成分・量比は岩石の特性を表わすおもな要素となつている。

前回(地質ニュース No. 37—1957・9)に記したように 長石族の中 Na—Ca 間の固溶体に相当する成分を有するものが斜長石と総称されて Na に近いものを曹長石 (Ab) Ca に近いものを灰長石 (An) とよび この中間を便宜上 次ようのに分けている。



これらの斜長石相互の識別は一般には晶癖・色調・比重・劈開角などにより 偏光顕微鏡では屈折率・消光角・光軸角などによつて決定される。

斜長石は結晶学上 三斜晶系に属するが 自形を示すことは少なく 不規則な粒状であることが多い。

まれにペグマタイトの晶洞中(曹長石等)火山岩の斑晶(中性長石等)あるいは火山噴出物と共に遊離単体として放出されたもの(灰長石)に完全な結晶として見られることがある。

結晶は単晶より双晶が多く

曹長石式双晶 = b (010) を双晶面とする接触双晶

ペリクリン式双晶 = b 軸を双晶軸とする接触双晶または反復双晶

カルルスバード式双晶 = C 軸を双晶軸とする接触または貫入双晶

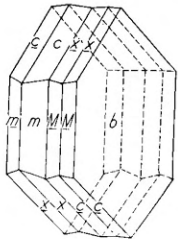
などがきわめて普通である。

標本中 とくに伊豆三宅島から産する灰長石は 結晶の美をもつて海外にも知られている。

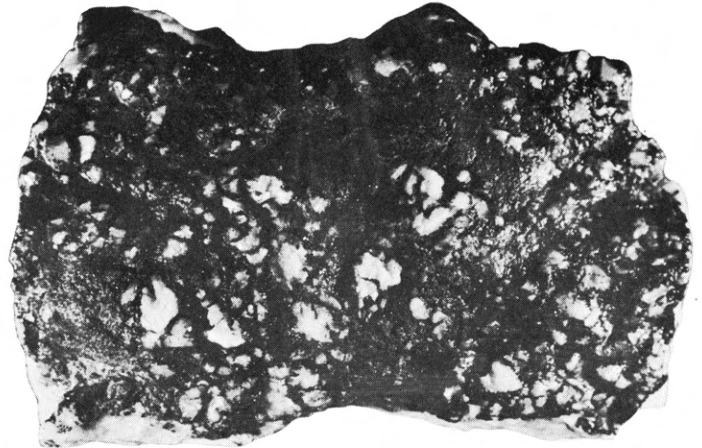
曹長石は窯業原料の資源として利用されることがある。

(標本室)

### 斜長石の結晶

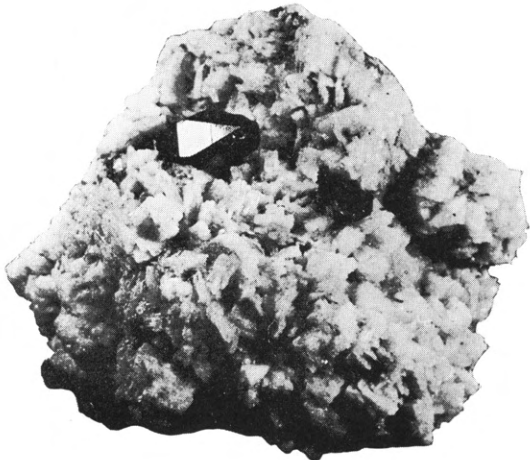


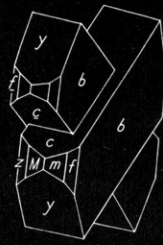
曹長石  
曹長石式双晶と  
カルルスバード式  
双晶の結合



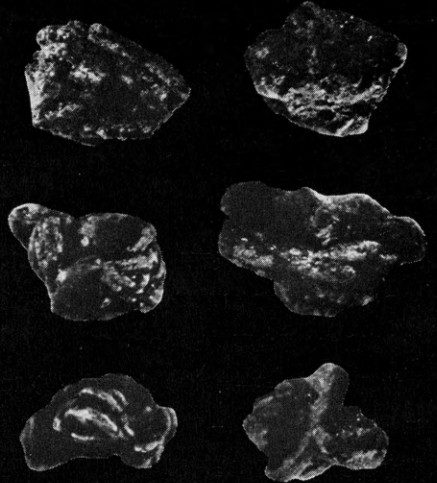
↑ 曹長石 約 × 0.9  
茨城県真壁郡真壁町山ノ尾

← 曹長石 約 × 0.6  
滋賀県栗太郡下田ノ上村田ノ上山

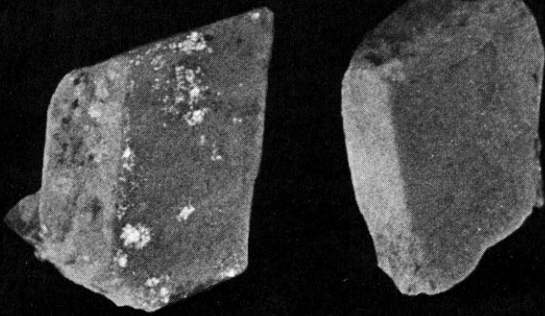




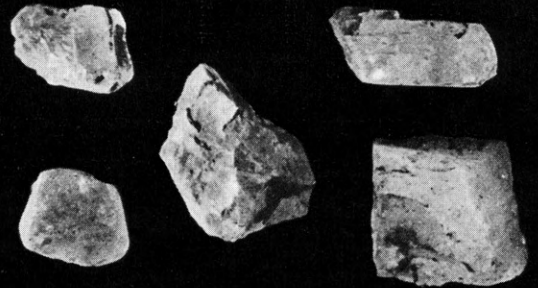
中性長石  
カルルスバード式双晶



中性長石  
小笠原硫黄島



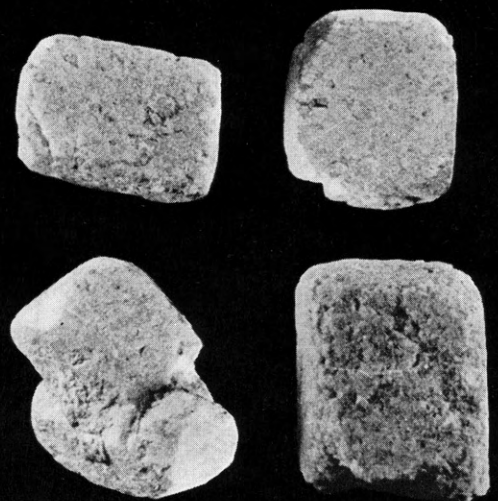
灰曹長石  
茨城県真壁郡榎穂村



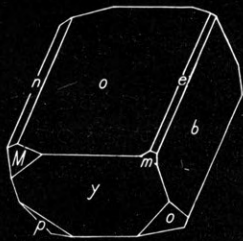
中性長石 × 2  
長崎県壱岐郡郷ノ浦町岳ノ辻



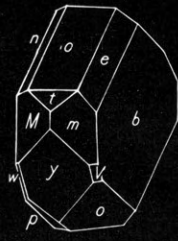
亜灰長石 × 2.5  
宮城県宮城郡三滝



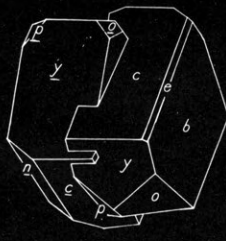
亜灰長石 × 1.8  
宮城県宮城郡三滝



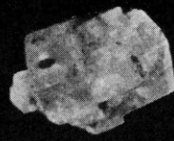
灰長石  
単晶



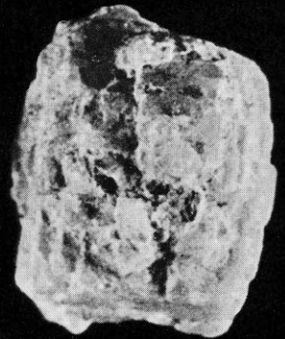
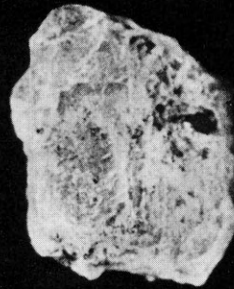
灰長石  
単晶



灰長石  
カルスバード式双晶

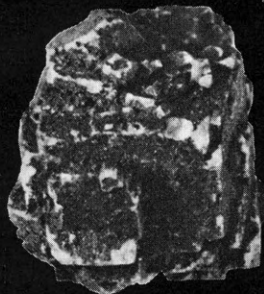
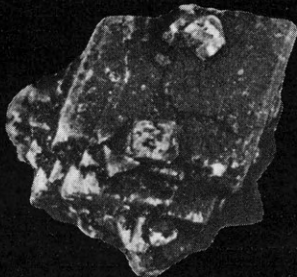
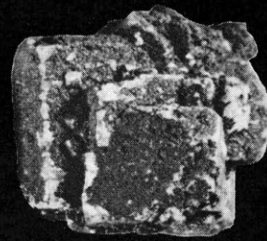
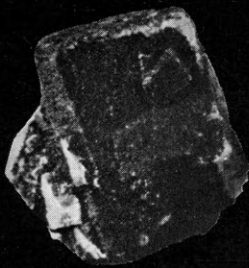


灰長石 × 2  
北海道樽前山



灰長石 × 2  
北海道後志国小樽市中学校

灰長石 × 2  
東京都八丈島末吉村洞輪沢



灰長石  
東京都三宅島